

件名	第22回 筑西市学校の在り方検討委員会について		
日時	令和8年3月13日(金) 午後6時30分～7時40分	場所	スピカ6階 コミュニティプラザ
相手方	筑西市学校の在り方検討委員会委員 (出席28名、欠席4名) オブザーバー(財務部):坂谷副部長兼管財課長、大山補佐、日向野主任	出席者 (対応者)	市塚教育部長、吉原副部長、松本副部長、 稲川副部長兼学務課長及び課員(海老原係長、杉山係長)、松山副部長兼指導課長、久保田義務教育学校整備課長及び課員(市村課長補佐、穂積補佐、大畑補佐、齋藤主任、宇都木主事)
<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 鈴木委員長</p> <p>3 新規委員の紹介及び副委員長の指名 副委員長:入山 克巳 氏(明野五葉学園校長)</p> <p>4 報告</p> <p>(1) 前回の振り返り</p> <p>(2) 明野五葉学園の開校について</p> <p>(3) 今後の児童生徒数の見込みについて ⇒ 質疑なし</p> <p>5 議事 進行:鈴木委員長</p> <p>(1) 協和中学校区の取組について</p> <p>○ 協和中学校区の取組のうち協和地区準備委員会の取組状況について、準備委員会の藤田委員長及び兼村副委員長に意見を發表していただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少が当たり前の状況となり、義務教育学校になるのは、早いか遅いかの問題。昨年1年間で、秋田県分の人口が減少した。先生の成り手がいない、という課題もある。さらに、不登校も増えている。協和中学校区の状況を確認したところ、小学校3校と中学校で18名の不登校児童生徒がいる。子供たちが9年間明るく過ごせるよう、自治会としても協力していきたい。関係機関が綿密な連携をとり、義務教育学校の準備を進めていきたい。皆様のご協力をよろしく願いたい。</li> <li>・ PTA部会でスクールバスの乗降場所について、グループワークなどを行い、検討を進めてきた。PTAの統合についても、まずは顔合わせなどから実施していきたいと思っている。</li> </ul> <p>⇒ 質疑等なし。事務局提案のとおり、今後も取組を進めていくことを承認。</p> <p>(2) 学校の在り方に係る市の検討状況について ⇒ 質疑等なし。「複式学級の解消に向けた検討の開始」と「今後の学校の在り方について、学校の在り方検討委員会で改めて検討すること」について、事務局提案のとおり承認。</p> <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筑西市学校部活動の地域展開について、資料6により情報共有。</li> <li>・ 委員の任期等について、3月31日で任期が終わり、改めて所属の団体から推薦をいただくことを連絡。</li> </ul> <p><b>【質疑】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①地域が不安に思っていることは、閉校後、学校がどうなるかということ。学校が荒れてしまったり、焚火の跡があったなどの話を聞く。早いうちに閉校後の利活用を決めてほしい。②現在でも指定校を変更し、小学校入学時から小栗小から新治小へ児童に流れている。その点についての市の考えは?小栗小入学予定者で、同じ保育園のグループ5人のうち、4人が新治小への指定校変更を決め、もう1人がギリギリになって変更した、という話を聞いた。</li> </ul> <p>→ ①市では「学校跡地利活用基本方針」を策定し、その中で学校用地が借地の場合は、地権者へ</p>			

の返還を優先することとしている。明野地区小学校でも、閉校前から跡地活用に係る事業提案型一般公募を実施したが、協和地区についても早めに準備を進めていきたい。

- ②指定校変更については「筑西市立学校の通学区に関する規則」の許可基準に基づき、保護者の仕事やお子様のそれぞれの事情など、やむを得ない状況で申請があった場合、許可している。
- 地元の学校に通うように、案内することはしないのか。
- 事情があり、検討したうえでの申請であると推察するため、していない。

## 7. 閉会

以上